

情報提供：五箇山地域でのアユ漁復活を目指して
～庄川小牧ダム上流でのアユ資源造成の試み～

内水面課 主任研究員 野村 幸司
食品研究所 研究員 川口 航平

1 背景・ねらい

庄川においては、かつては上流域（旧利賀村、平村、上平村）へアユが遡上し、江戸時代にはヤナ漁も行われていたが、昭和5年の小牧ダム建設により、ダム上流域へのアユの遡上が途絶えた。アユは内水面において重要な漁業・遊漁の対象魚種であり、漁業権が設定されているアユ漁場周辺では、地域振興に大きく貢献していることから、地元からはアユ漁復活による地域振興を望む声が聞かれる。

このことから、現在はアユが漁業権魚種ではない庄川の小牧ダム上流域にアユを放流し、当該区域でのアユ資源造成に向けた調査を2018年度から3年間の計画で庄川沿岸漁業協同組合連合会（以下、庄川漁連）と共同で実施している。このうち、2018年度に実施した調査について、現在までの経過を情報提供する。

2 概要

2018年6月19、20日に上平（庄川本流：五箇山IC西側）、平（庄川本流：平行政センター南側）、利賀（利賀川：豆谷ダム湖）の3箇所各10,000尾のアユを放流した。8月～10月に各地区で釣獲調査を実施したところ、利賀川ではサイズの大きいアユが友釣で採捕され、その全長、体重、肥満度および脂質含量は、同時期にダム下流の庄川で採捕したアユよりも有意に高かった。また、ダム上流で採捕したアユと、ダム下流で採捕したアユの塩焼きについて食味を比較したところ、脂の乗り以外の項目では有意差が見られなかった。このことから、利賀川ではアユが十分に成長できる環境があり、郷土料理として十分な食味を持つと考えられた。

一方で、上平および平地区では7月の増水の影響が長期化したことにより、良い釣果は得られなかった。また、利賀川においてはアユの生息密度が0.07尾/m²と低かった。このことから、次年度は上平および平地区では増水の影響が比較的少ない支流での放流、利賀川では放流量の増加を検討する。さらに、アユの降下時期である10月に小牧ダム湖で実施した魚類調査では、アユは1尾確認されたのみであったため、調査時期や場所を再検討し、調査を継続する。

3 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 内水面課
担当：野村 幸司
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

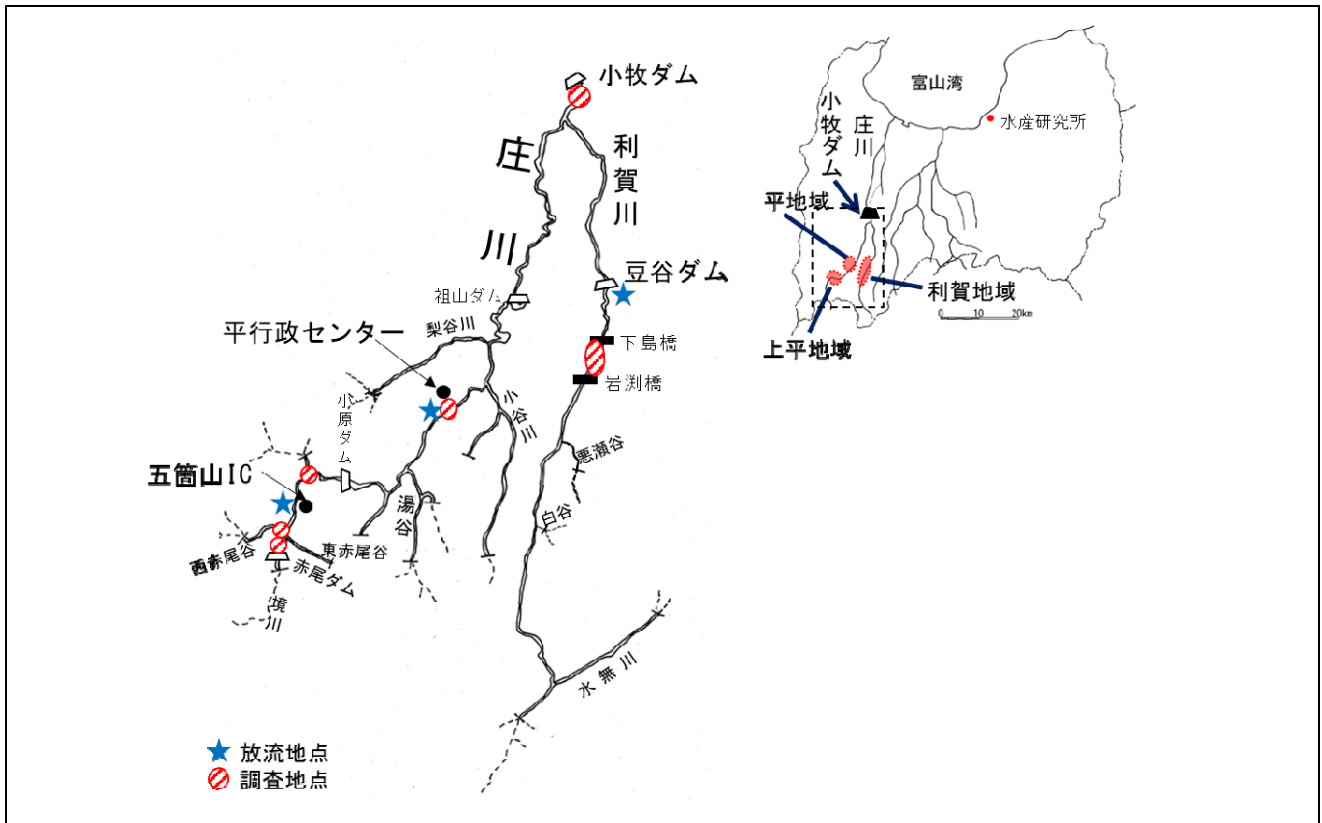


図1 放流地点および調査地点図

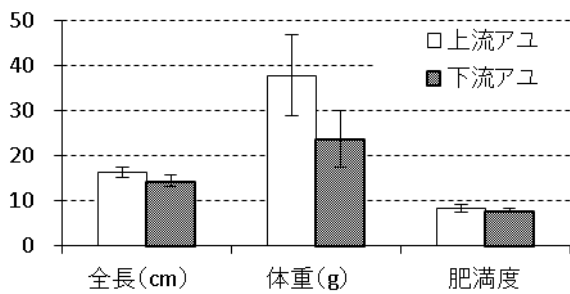


図2 上流アユと下流アユの魚体の比較

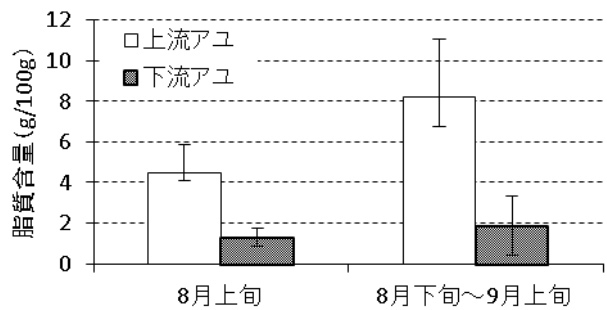


図3 上流アユと下流アユの脂質含量の比較

(単位:人)

	色が 良い	香りが 強い	臭みが 強い	身が 柔らかい	脂が 乗っている	甘みが 強い	うま味が 強い	総合
上流アユ	7	6	6	6	13*	4	7	8
下流アユ	6	6	3	6	0*	6	8	6

*有意差あり

図4 上流アユと下流アユの食味試験結果